

# 第 186 回広島ユネスコ講演会 (ユネスコサロン)

2024/9/28

『世界にヒロシマを伝えて 40年』

講師 小倉桂子さん



講演される小倉桂子さん

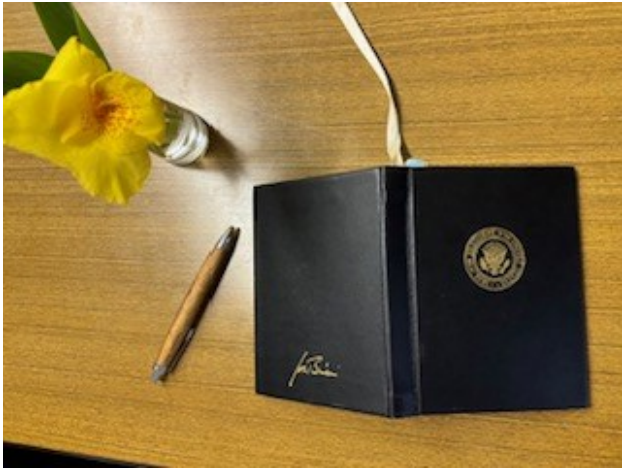


小倉桂子さんは 42 歳の時にご主人を突然亡くされ、その後通訳となり 40 年間、被爆証言を世界に発信してこられた。中でも G7 広島サミット 2023 で、各国首脳やウクライナのゼレンスキー大統領に証言されたことは記憶に新しい。平和記念資料館で秒刻みのスケジュールをこなす要人たちに、寸分の無駄もなく、英語でヒロシマの惨状を伝え得た功績は極めて大きいといえよう。

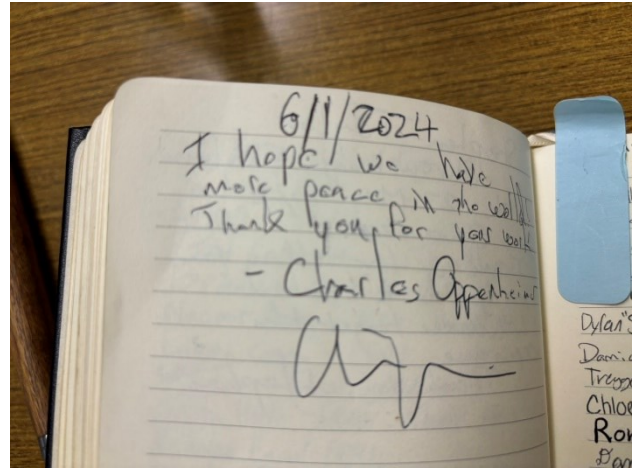
小倉さんは 8 歳の時、広島市牛田で被爆。サロンでは当時の様子を、基町高校の生徒が被爆者と共同制作した「原爆の絵」や、写真、地図などを用いて説明された。被爆者には「言えないことがある」という。それは瓦礫となった建物の下敷きになり「助けて」と叫んでいる人を、家族を、まだ生きていと分かっているながら、見捨てて自分だけが逃げた体験だという。眼前には原子爆弾による猛火が迫り、このままでは自らも焼けて命を落としてしまう。そんな究極時の選択。いったい誰が咎（とが）めるだろうか。けれど人間はそんな自分を肯定し、何もかも忘れて生きていけるほど冷酷ではない。戦争はかくも罪なき人の心をいつまでも苛（さいな）み続けるものなのだ。

小倉さんはアメリカでも証言を重ねてこられた。退役軍人に「congratulations!」（おめでとう）と迎えられたことがあったそうだ。「原爆を落さなければ日本人は集団自決していた。原爆によって戦争が終わり、君は生き延びることが出来た」。ラッキーだったねという見解らしい。こうした相違にもへこたれず証言を続けられた小倉さん。その岩を穿（う）が）つような努力が実を結び、今年アイダホ大学から名誉博士号を授与された。そのご縁で被爆証言がイタリア語にも翻訳されたそう。欧州の人にも伝わっていくと目を輝かせる。

お話は流れるように続き、まだまだお聞きしたいことがいっぱいでした。ありがとうございました。



G7の後、バイデン大統領から送られてきた手帳



手帳のサイン&メッセージは、2024年6月にオッペンハイマー博士の孫であるチャールズ氏が来広時に書いていただいたもの

(感想記事まとめ/文化部会 大村直生 写真/木船裕美)